



教育目標 ◎自分で深く考える子 ◎思いやりをもって助け合う子 ◎がんばってやりとげる子



～一人一人が輝き、幸せな学校～

# 佐々木小

令和8年2月27日  
新発田市立佐々木小学校  
学校だより 第22号



## 春の香り

明るい日差しを浴び、子どもたちは元気いっぱいです。

校庭に出て、足下の土を踏みしめます。ふわっとしたやさしい感触が、春の訪れを感じさせてくれます。ほのかな土の香り、草の香りが初々しく、つい全力で駆け回り、思う存分、息を吸い込み、春の香りを味わっているようです。

去りゆく冬と訪れる春、子どもたちは、爽やかな気持ちで今年度残り少ない日々を過ごしてくれることでしょう。





## 「ありがとう」の言葉

校長 金平 弘之郎

間もなく「6年生を送る会」が開かれます。それぞれのクラスを巡ると、当日の飾り付けや小道具を真剣に作っている姿や当日の発表練習をしている姿に出会います。その準備の中で目にしたり耳にしたりする言葉は、やはり「ありがとう」です。どの学年の子どもたちも、どうやってその気持ちをうまく伝えられるか、一生懸命に考えていることがひしひしと私に伝わってきました。

感謝を表す言葉は世界中にたくさんあります。「Thank you」「Merci」「Gracias」「Danke」など聞いたことがある人も多いのではないのでしょうか。音が似ている国もたくさんあります。そんな中で日本の「ありがとう」の5文字を私は唯一無二のものと感じています。なぜなら、この言葉の成り立ちや意味にとっても深みがあるからです。

「ありがとう」の語源を辿れば、「有り難し」という言葉であり、「在ること」が「難しい」という意味だそうです。つまり滅多にない、貴重な出来事への感謝と畏れの言葉として生まれ、現在のお礼の言葉「ありがとう」に変わったのだとされています。だから「ありがとう」の言葉には、滅多にない、貴重なことへの感謝と畏れの意味が含まれているのです。私たちが大切にしている「一期一会」の精神に通ずるものを感じます。

私たちは、日常の様々な事象や人の行動に対して、この「ありがとう」という深い言葉を使い、相手を敬い、畏れているのです。何だかすごいと思いませんか。そして、日常生活で自然とこの言葉が、誰とでも交わされていることは、なんて素晴らしいことでしょうか。「ありがとう」の言葉について、私たちはあまり意識せず使っているかもしれませんが、とても崇高な言葉なのだ意識してみると、より「ありがとう」の言葉のすばらしさを実感できるのではないのでしょうか。

さて、学校生活で1年生から5年生の子どもたちが6年生へ「ありがとう」の言葉を伝えた場面とは、一体どんな場面なのでしょう。一緒に遊んでくれたこと、登校班で歩いてくれたこと、行事でたくさん支えてくれたこと、委員会でみんなのお世話をしてくれたことなど、たくさんあることでしょう。6年生なので他の学年のために行動するというは当たり前のように感じますが、実はどれも他の人のために尽くすという、崇高な行動であることに間違いありません。そんな貴重な場面で、いつも感謝の気持ちを伝えていられればいいのですが、きっと伝える機会を逃してしまったこともたくさんあることでしょう。当たり前と感じ、そのありがたみに気付かなかったこともあるでしょう。だから、「6年生を送る会」は、伝えきれなかった自分たちの思いをしっかりと伝える大きなチャンスなのです。思う存分「ありがとう」と感謝の言葉を交わし合ってくれることを期待しています。

人に感謝することは、心の成長を促します。相手の立場を慮り、「ありがとう」の言葉をかけ合いながら、人はギブ&テイクを繰り返し、社会性を身に付け、心を豊かな人へと育っていきます。令和7年度も、あとひと月、学校に感謝の気持ちをあふれさせ、次年度に向けて子どもたちの心の成長を図っていきます。令和7年度最後のひと月、よろしくお祈りします。